

# 策定プロセス訪問調査事例

鳥取県倉吉市

# 母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名 ( 倉 吉 市 )

記載担当者名 ( 大道 美佐子 )

	市 町 村		保健所 の関与
	市町村行政内部の作業	住民参加	
<p>【Ⅰ】事例の概要 ◆事例検討に当たって理解しておくべき背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口、地理的条件、社会資源等</li> <li>・市町村の組織体性等</li> <li>・住民組織の成熟度等</li> <li>・県の取り組みと保健所の特徴</li> <li>・その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口約51000人。鳥取県の中間に位置し、市の中央部は盆地で市街地を形成し、周辺では農業等が営まれている。旧市街地を中心としてドーナツ化現象が進み、老人人口が増え、若者の定住化対策と少子化が大きな課題となっている。</li> <li>・保育園、児童センター等はほぼ充足されており、在宅の乳幼児を対象としたオープンデー、乳幼児クラブ等を開設する施設が増えてきつつある。</li> <li>・産科、小児科等医療機関は市内に充足されている。</li> <li>・住民組織は、食生活改善推進員が良く活動しているが、その他の組織については、地区差もあるが、活発な自主活動はあまり見られない。</li> <li>・平成8年4月機構改革（長寿社会課、福祉課、市民福祉部）</li> <li>・保健婦数 平成8年 7人 平成9年 9人</li> </ul>		
<p>【Ⅱ】計画策定の準備 ◆計画策定の目的、策定の手法等の合意形成</p> <p>①合意形成のキーマン</p> <p>②範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首長、財政、他課、議会、住民組織、医師会等</li> </ul> <p>③合意形成の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別調整、会議、研修・勉強会等</li> </ul> <p>④策定体制の有無、構成、運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成5年保健福祉計画策定コンサルタントに頼まず自力で作った。病院が多いので、ソフト重視の計画に集中できた。</li> <li>・地域でかけていって話してニーズを把握しようとしたが、意見があまりなかった。</li> <li>・県からの指導で4月からつくり始めた。</li> <li>・事務職の係長と保健婦が、母子保健計画づくりについて相談。係長が、課長、部長に計画策定について理解を求め、部長より了承を得る。</li> <li>・部長が社会福祉事務所長時代につくっており、計画づくりを知っていた。</li> <li>平成5年 保健福祉計画策定 平成7年 エンゼルプラン作成</li> <li>・当初、係長と保健婦2人が中心となって計画策定スケジュールを作成。係内、課長、部長の了解を得る。</li> <li>・係長、課長、部長が中心となって「母子保健連絡協議会」の委員選任、及び「母子保健連絡協議会設置要綱」等作成。</li> <li>「母子保健連絡協議会」構成委員 医師会2人、歯科医師会1人、保健所1人、児童相談所1人、教育関係者2人、学識経験者2人、市職員2人</li> <li>・係長、課長、部長が中心となって「母子保健連絡協議会専門委員会」の委員選任作業を行う。</li> <li>「母子保健連絡協議会専門委員会」構成委員 保健所1人、児童相談所1人、教育関係者2人、市職員1人</li> <li>・保健婦3人が、母子保健計画の具体的検討を担当し、都度、係全体で検討を加える。</li> <li>・計画策定の参考とするアンケート調査の実施について、医師会（特に産婦人科）、市内の小中高校、未婚の成人男女に協力を願う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健定例会にて、母子保健計画策定についての説明があった。</li> </ul>
<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算</li> <li>・人的体制</li> <li>・時間の確保</li> <li>・その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月補正で予算を確保。</li> <li>・計画策定に必要な時間を確保するため、保健婦業務を調整。</li> <li>・時間外対応については、係長が職員課と調整。</li> <li>・計画担当の保健婦数は、平成8年7月より2人から3人となる。</li> </ul>		
<p>【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握</p> <p>①地域の実態、住民ニーズ把握の視点の整理と共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キーマン、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画担当保健婦がキーマンになって、調査方法について検討。当初は混乱したが、岡山県長船町の母子保健計画（県が先進例として保健所へ渡した）を学び、倉吉市の方法についてのヒントを得る。</li> <li>・課長、係長、保健婦が各所に出かけて、妊婦、乳幼児、小学生の保護者、中学生、高校生、未婚の成人男女に対し、アンケート</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市から計画策定に必要な資料の提供を依頼。</li> <li>・アンケート調査の内容検討に、保健所長、予防課長からのアドバイスを受ける。</li> </ul>

<p>範囲、手法 検討体制 (【II】と同様)</p> <p>②具体の手法 ・既存資料の活用 ・住民等との対話 ・アンケート調査</p>	<p>調査を実施。(エンゼルプランでもステージ別の調査をしている。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画担当保健婦が計画に必要な情報、方法について検討。</li> <li>・人口動態やその他の母子保健情報について保健所に協力要請した。</li> <li>・乳幼児に関する資料、ニーズについては、前年度に策定された「倉吉市子育ていきいきプラン」(エンゼルプラン)を活用。</li> <li>・調査結果の分析については、市内の短期大学教授に依頼。</li> </ul>		
<p>【IV】計画(施策)化 ①具体の対応方策に関する検討協議と関係者の合意形成</p> <p>②内容 ・具体の目標、数値目標 評価指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画担当保健婦が、計画原案を作成。</li> <li>・係内で計画原案を検討。</li> <li>・連絡協議会、専門委員会で計画原案を検討協議。(各3回づつ)</li> <li>・目標、目標数値については、国の示す基準を参考に、市の現状等も踏まえて、理想的と思われる数値を掲げた。</li> </ul> <p>【課題・問題点・苦労したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接に住民の意見を聞き、それを吸い上げて計画に反映させたかったが時間的な問題等を考えてアンケートという形になった。フリーに書かれている意見をすべて、とはいかなかったが、ある程度は計画に反映できたと思う。</li> <li>・前年に「倉吉市子育ていきいきプラン」が策定されていたため、それとの整合性をもつように心がけた。また、このプランの資料面、計画策定の手順等が大変参考になった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡協議会委員、専門委員として予防課長が参画し、それぞれ委員長として、会をリード。</li> </ul>
<p>【V】計画の具体化 ・9年度予算への反映</p> <p>・計画の進行管理 組織体制</p> <p>・住民、関係機関への周知等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦2人増員、歯科衛生士1人配置。</li> <li>・母親学級・両親学級が予算化。近隣の町村と合同で事業開始。</li> <li>・3才児健康診査、妊婦・乳児健康診査についても予算化し実施。</li> <li>・ミニコミ誌「わくわくだより」を予算化し、毎月発行。</li> <li>保健婦がつくり、健診などで渡している。</li> <li>・児童センターとの協力体制をとり、乳幼児クラブ、3才児教室を新設。また、幼児教室もセンターと合同で実施となる。</li> <li>*ハイリスク妊婦・乳幼児の家庭訪問についても力を入れている。</li> </ul> <p>・計画策定後、連絡協議会委員の任期が終了したため、平成10年度から新たに計画の進行管理のための会を設置するために予算計上している。</p> <p>保健福祉計画づくりでもやっている。</p> <p>メンバーに議員を入れておく予算をとりやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主育児サークルが平成9年12月に発足。</li> <li>・ミニコミ誌についての問い合わせ、情報活用等反響あり。</li> </ul>	
<p>【VI】全体を通じた事例のまとめ(キーワードも記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画策定について、部長が積極的な考えで、スタッフをリードしていただき、非常に作業が行いやすかった。</li> <li>・計画策定に取りかかる前に、対象を検討した。母性の範囲が広く悩んだが、乳幼児関係よりも少し対象の範囲を広げ、成人までとしライフステージ別に考えた。</li> <li>・今まで、学校はノータッチの部分だったが、今回各委員会で学校の養護教諭から学校の様子等を聞くことができた。これをきっかけに学校との連携を深めていきたい。</li> <li>・計画を策定し冊子としてまとめることができたが、このように1冊の本として形に残ると、自分たちの活動を客観的に見ることができた。また、ライフステージ別の目標一覧表を作ったことにより、「今後この対象にこんなことを・・・」「この事業はこの部分に入る」というように考え方の整理がしやすくなった。</li> <li>・本市には保健センターのように保健事業の拠点となる施設がない。このため、保健事業はすべて、いろいろな施設をかりて行っている点に事業を企画運営する際の限界を感じる。</li> </ul>		

